様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23 年　5 月　16 日現在

機関番号：１２５０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５３０８０３
研究課題名（和文）　昭和初期小学校音楽科教育の形成過程に関する研究

研究課題名（英文）　A Study on the Formative Period of Music Education in Primary Schools at the Beginning of the Showa Era.

研究代表者
本多　佐保美（HONDA SAHOMI）
千葉大学・教育学部・准教授
研究者番号：９０２７２２９４

研究成果の概要（和文）：

本研究の成果は、①モノ的視点から音楽教育実践史を見ることにより、昭和 10 年代における一地域の鑑賞指導、および器楽指導の諸相をとらえようとした点、②長野県飯田市、上田市の地域における事例の比較研究をとおして音楽教育実践の状況と子どもたちの音楽体験をとらえようとした点、③国民学校期教材の音楽的特質を主としてリズム面から解明しようとした、この 3 点に集約することができる。

研究成果の概要（英文）：
This study revealed the following 3 points:
1. We pointed out that we could understand the various aspects of music appreciation and instrumental instruction from the viewpoint of “things” at the beginning of the Showa era.
2. We could execute the case study by comparing that of Iida City with that of Ueda City.
3. We could study the music characteristics of the teaching materials in the period of the Kokumin Gakko (National School) from the rhythmic aspect.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,200,000	360,000	1,560,000
２００９年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：音楽教育学
科研費の分科・細目：教科教育学
キーワード：音楽教育実践史　教育学

１．研究開始当初の背景

本研究は、昭和 16 年度から制度化した国民学校における芸能科音楽の研究を出発点とし、科研費研究「音楽教育史研究における制度・教師・学習者の関係性の探求」（平成 13～15 年度）、「昭和 10 年代の音楽教育実践史に関する総合的研究」（平成 17～19 年度）に引き続き、継続的に推進してきている音楽教育実践の歴史研究である。

研究開始当初は、「総合的学習の時間」が新設され、その在り方が検討されていたことを背景に、国民学校における綜合教育への注目が研究の発端となった。また一方で、歴史

研究に社会学的手法を取り入れ、当時を生きた人々へのアンケート調査及びインタビュー調査を実施するアプローチのしかたを試みる過程で、国民学校期の芸能科音楽の制度化前後の時代が非常に興味深い時代であったことが浮かび上がってきた。

芸能科音楽の時代になり、音楽の学習指導領域は拡大し、それまでの唱歌教育に加えて器楽、鑑賞なども行うことができる体制となった。その動きを準備した昭和 10 年代を長野県の一事例の地域性とモノ的視点をふまえとらえることで、音楽教育実践史に新たな展開が見出せることが期待された。

２．研究の目的

本研究の目的は、我が国の小学校音楽教育が唱歌教育から脱皮し、音楽科教育としての成立条件を整備していった昭和初期、1930～40 年代の動向に焦点を当て、その形成過程の諸相を明らかにすることにある。

具体的には、当初、次の二点を掲げた。まず 1 点目は、当時結成された音楽教育家たちの職能団体である日本教育音楽協会の動向に注目し、協会のメンバーのありようや、文部省との交渉の過程をたどることにより、音楽教育家たちの意向がどのように制度の上に反映されていったのかについて明らかにすることであった。2 点目として、一方で、実際の学校現場での状況をミクロに把握する視点が必要であり、そのために、長野県飯田市および上田市の小学校をフィールドとする事例研究を実施した。事例をとおして、制度上の規定が国、県、地域教育研究会、各学校と波及していく過程や、学校や各地域が制度に先んじて地域ごとの音楽文化を展開していく状況などを詳細に描きだすことをめざした。

３．研究の方法

研究の目的にあげた 2 点目について、長野県飯田市への調査（飯田市立座光寺小学校、上郷小学校、飯田市歴史研究所など）および長野県上田市への調査（上田市立清明小学校、塩尻小学校、神科小学校、豊殿小学校）をとおして、学校文書資料と当時の地域特性を明らかにできるような周辺資料の収集・閲覧作業を継続してすすめた。

また、長野県上田市の旧塩尻村、神科村、豊里殿城村地域住民で、当該時期に尋常高等小学校および国民学校を卒業した年代の方々へのアンケート調査およびインタビュー調査を実施し、音楽教育の受け手（学習者）の学校音楽にたいする意識や音楽受容の様相を探究することとした。

アンケート調査は住民台帳にもとづき昭和 5～9 年度生まれの方々を対象として、平成 22（2010）年 9 月に実施した。発送総数は 777 通、返送数 162 通、回収率は 20.8%であった。さらにアンケート回答者の中からインタビュイーを選定し、平成 23（2011）年 3 月にインタビュー調査を実施した。

４．研究成果

本研究の成果として、以下の 3 点をあげる。

（１） モノ的視点から見る音楽教育実践史
（２） 地域特性をふまえた事例の比較研究
（３） 国民学校期教材の音楽的特質の解明

唱歌指導のみを教育内容としていた「唱歌」科から、鑑賞指導や器楽指導も教育内容に含む音楽科教育が成立していくには、ピアノなどの楽器や蓄音器やレコードといった備品、つまりモノの整備が不可欠であった。

本共同研究において、モノ的視点から音楽教育実践史を見ることにより、当時の子どもたちの音楽経験を明らかにしようとした。大沼覚子は、長野県飯田市座光寺小学校に残されたレコード付録資料等の分析をとおして、①座光寺小学校では、国民学校令に先行してレコードや蓄音器を使用して鑑賞などを行う環境がある程度整っていた。②レコードの使用には鑑賞だけでなく、様々な用途があっ

た。③レコード鑑賞会が開かれていた状況は、他の小学校との共通性が認められる、の諸点を明らかにした。

山中和佳子は、長野県上田市塩尻国民学校を中心に、当時のラッパ鼓隊とブラスバンドの活動の状況を詳細に検討した。長野県上田地域では、長野県高遠や東京の誠之等他地域と比較して、ラッパ鼓隊やブラスバンドの活動の記録が多く見られる。ラッパ鼓隊や吹奏楽器が学校内外においてどのような文脈で活用されたのか。また、塩尻国民学校におけるブラスバンド楽器導入の経緯と、その後の演奏技術習得の状況について明らかにした。

西島央は、長野県飯田の竜丘地域等の教育予算書から当時の教育費の状況を明らかにし、一方で学校文書等の記録からピアノや蓄音器を諸地域の学校がいつ頃、どのように入手したのかについて検討した。学校の音楽教育のためのモノ的整備には、教育費と寄付が使われ、とりわけ寄付が重要であったことを指摘した。寄付をできる経済状況と音楽活動に対して寄付をすることを可能にする文化状況があったといえる。

藤井康之は、国民学校における器楽活動について、東京の誠之、長野県の飯田と上田の事例の比較をとおして、当時の器楽の状況を考察した。国民学校期に取り入れられた器楽活動は、その実態は一様ではなかったが、飯田の座光寺の事例等は比較的早い時期の例であり、戦後の器楽の発展につながる布石となった。

本多佐保美は、国民学校期の音楽教科書教材の特質を、主としてリズム面から分析し、この期のリズム的特徴として、ぴょんこ止めリズムと拡大ぴょんこ止めリズムが約5割を占めていることを明らかにした。さらに歌詞内容との相関の分析から、これらリズム型は特に「超国家主義」、「ミリタリズム」、「生活・勤労」の歌詞内容の歌と相関があることがわかった。

これらの成果をふまえ、今後の課題としては、これまでの継続的な研究成果をまとめて、東京と長野の事例を軸とした昭和 10 年代から国民学校期（昭和 16～22 年）にいたる音楽科教育成立の諸状況を総合的にとらえた総説を公開することを目指したい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 本多佐保美、西島　央、永山香織、大沼覚子、藤井康之
「昭和初期小学校音楽科教育の形成過程に関する研究―長野県飯田市の事例をとおして見る地域と学校」、『千葉大学教育学部研究紀要』第 58 巻、pp.127-135、2010 年、査読無

② 本多佐保美、西島　央、藤井康之、永山香織、大沼覚子、多和田真理子
「共同企画：昭和初期小学校音楽科教育の形成過程に関する研究―長野県飯田市の事例をとおして見る地域と学校」、『音楽教育学』第 38 巻、第 2 号、pp.59-65、2008 年、査読無

〔学会発表〕（計５件）

① 本多佐保美
「国民学校期教科書教材の音楽的特質を探る」第 3 回歴史的認知音楽学研究会、於：東京大学駒場キャンパス、2010 年 5 月 1 日

②西島　央
「備品・教育費からみる学校と地域の音楽関係史；教育費からみる音楽科教育の形成過程試論―竜丘小学校の学校文書を中心に」、洋楽文化史研究会第 60 回例会、於：東京大学駒場キャンパス、2010 年 3 月 7 日

③大沼覚子
「備品・教育費からみる学校と地域の音楽関係史；学校所蔵史料にみるレコード使用の諸相―座光寺小学校を中心に」、洋楽文化史研究会第 60 回例会、於：東京大学駒場キャンパス、2010 年 3 月 7 日

④本多佐保美

「備品・教育費からみる学校と地域の音楽関係史；学校備品の整備状況からみる昭和 10 年代の学校音楽の諸相―楽器・器楽領域を中心に」、洋楽文化史研究会第 60 回例会、於：東京大学駒場キャンパス、2010 年 3 月 7 日

⑤本多佐保美、西島　央、藤井康之、永山香織、大沼覚子、多和田真理子

「共同企画Ⅳ　共同研究　昭和初期小学校音楽科教育の形成過程に関する研究―長野県飯田市の事例をとおして見る地域と学校」日本音楽教育学会第 39 回大会、於：国立音楽大学、2008 年 11 月 8 日

６．研究組織

(1)研究代表者

本多　佐保美（HONDA SAHOMI）
千葉大学・教育学部・准教授
研究者番号：９０２７２２９４

(2)連携研究者

今川　恭子（IMAGAWA KYOKO）
聖心女子大学・文学部・准教授
研究者番号：８０３８９８８２

大沼　覚子（ONUMA SATOKO）
東京藝術大学大学院博士後期課程・
日本学術振興会特別研究員
研究者番号：６０６０９９２３

西島　央（NISHIJIMA HIROSHI）
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号：００３１１６３９

藤井　康之（FUJII YASUYUKI）
奈良女子大学・文学部・准教授
研究者番号：４０４３６４４９

(3)研究協力者

永山　香織（NAGAYAMA KAORI）
筑波大学附属視覚特別支援学校教諭

山中　和佳子（YAMANAKA WAKAKO）
東京藝術大学大学院博士後期課程